

石岡市立小中学校統合再編計画地区住民説明会（城南地区公民館） 要旨

日時 令和2年1月28日（火） 午後7時から午後8時20分

場所 城南地区公民館 講堂

執行部 児島教育長，豊崎部長，吉澤次長，倉本参事，神谷参事兼教育総務課長，関指導室長，細谷副参事，小川課長補佐，海東係長

参加者 31名

次第

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 職員紹介
4. 統合再編計画に係る説明

資料

- ・石岡市立小中学校統合再編計画
- ・主な自由意見（アンケート）

5. 質疑応答
6. その他
7. 閉会

～～～ 次第に沿って4.統合再編計画に係る説明まで行なう ～～～

（参加者）

私，地域の関川地区の者なんですけれども，時代とともに少子化に伴って統廃合になるのは仕方ないと思っております。反対は決してしないんですけれども，跡地利用ですよ，地域として一番心配しているのは，跡地の利用なり，市の方で何か案とか考えがあればお聞かせいただければと思います。

（事務局）

ありがとうございます。跡地の利用については，全国的にもここ数年で，相当数の廃校がなされてきているところで，先進的な事例ですと，学校の校舎を利活用した地域の活性化の拠点として再生する学校もありますけれども，今現在では教育委員会としましては校舎の跡地については，特段決まっているところはありません。けれども，統合再編をする過程において，時期を見まして皆さんからのご意見を頂きながら，地域の中で活用いただけるような方策を考えていきたいなと思っております。教育委員会だけではなく，利活用するにあたっては，市の関係部局とも協力しながら考えていく必要があるかなと考えております。

（参加者）

あくまでも地域の者としての考えなんですけれども、何ら考えていないで学校跡地が残されたら、後が大変困ってしまうんです。地域の状況がら、夏休みの40日間にしても我々も奉仕作業で出るんですけれども、かなりの草が覆ってしまって作業が大変なんです。仮に廃校が決まって1年ないし2年3年と放置された場合には、それは相当の荒れ放題になってしまう。関川地区はすでに聞いているかもしれないんですけれども、すでにイノシシが出ている状態なので、その辺をよく考えて、統合するばかりではなくて、ある程度、跡地をどうするか、跡の利用をどうするかくらいまで、ある程度市の方で案なりを示していただければなと思います。その旨よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございます。

(参加者)

高浜の者です。質問にもあると思うんですけれども、小学校を中心にして、地区住民と催し物を高浜もやっているんですけれども、学校がなくなってしまうと、この辺の催し物が衰退して、地区住民のコミュニケーションが取りにくくなってしまいうんですね。その辺はどのようにお考えなのか方策があるのか何かあったら教えてください。

(事務局)

ありがとうございます。統合再編については、その辺も課題になってくると思います。学校はバスに乗って行って、バスに乗って帰ってくるような形で、子どもたちを見かける姿も少なくなってしまう事も心配されてらっしゃる方もいらっしゃいます。これまで地域の中でやってきた行事等も含めまして、関係保護者の皆様とも学校とも話し合っ、機運醸成を高めながら進めていきたいと思います。今までやってきた行事がすべて同じようにできるかという、はなかなか難しいところもあると思うんですけれども、その中でも、やはり地域との繋がりというのは大事だと思いますので、保護者の皆様にも説明しながら、そういったアイデアを考えていきたいなと思います。

(参加者)

高浜地区なんですけれども、私青少年を育てる会の高浜支部の支部長をしておるんですけれども、少人数だからできるという行事、例えば地域住民との交流会とかね、そういった部分で先程の意見とも重複する部分もあると思いますが、地域の運動会なんかも学校の理解というか協力、配慮がないとできないようになってきていると思うんですね。例えば南小に統合になると、今度の日曜日は5年生はサッカーの試合だとか、何年生はどこどこで試合があるとかですね、そうすると、「あなたは高浜地区の人だから試合に来なくていい」とそういった事、具体的に現実の問題ってそういう点が生じるかなと思うんですよね。現実的には高浜地区で運動会・文化祭ってやっているんですけれども、子どもがいない年寄りだけの運動会で全然盛り上がりがないと、そういった状況が現実には発生するかなと思うんです。その辺はなんとか。やはり子供は地域とともに育っていく。我々も地域とともに育ってきて、地域の先輩や親、近所の人に叱られながらだんだんと育っていった。そういった状況が、統合が原

因ばかりではないんですけれども、薄れていくということですね。それを学校としては補充するかと思うんですが、地域性がだんだん薄れていくような感じがしますので、やはり子供も地域の中で育つのも大切かなと思いますので、その辺のご配慮を考えて頂ければいいかなと思います。以上です。

(事務局)

ありがとうございます。協議が進んでいきますと、学校統合の際の調整の他に、育成会の会長さん等とお会いする機会もございますし、子供会の現状とかその活動状況もそれぞれあるかと思しますので、十分話をしながら進めていきたいと思えます。

(参加者)

関川地区の者です。あまり、今の状況とは全然関係ないんですけれども、こちらは避難地区として小学校関係がなっているんですけれども、近い地震関係では東北ですね、地震とか大雨とかがあって川が氾濫して、地区の小学校中学校が避難場所になっておりまして、その関係になりますと、今度統廃合によって廃校になったときに避難場所が無くなってしまいうわけですね、その可能性はこの地域は非常に起こりにくいでしょうけど、そういった関係はどうなっているんでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。市の方で防災計画を立てておりまして、エリア的に面的に避難所を定めている状況です。統廃合によって現況変わるところはあるかと思うんですけれども、一定の防災設備というのはどの地域でも充足できるような形で残っていくかと思えます。現時点でどういった機能が残るかというのは具体的にお示しできませんけれども、今関川小にあるのは、耐震性貯水槽ですとか、そういったところもあるかなと思えます。そういったものも防災設備の一つですので、そのような設備を今後どのように残していくのか、廃校になっても、ある程度地域の方々が有事の際には集まれる場所が必要ではないかと思えますので、関係部局と協議しながら、安心安全のための部分は十分に協議していきたいと思えます。どこの地域でも場所がなくなってしまうと、どういう状況にあってもひとまず集まれる場所とか、連絡調整ができるような場所というのは地域には必要かなと、私自身も思っておりますので協議していきたいと思えます。

(参加者)

高浜地区の者です。社会的に言われているのは「ゆとりのある社会」という事があると思えますけれども、統合再編については、私は何もないと思えますけれども、ちょっとゆとりのない、逆にぎゅうぎゅう積めの小中学校にしてしまうんじゃないかという考えなんです。ですから、基本答申案の中でも、クラス替えの必要な学級数9クラスですか、それから距離がどうか書いてありますけれども、石岡市の適正の基本的な考え方、それから配置というのはいつからあるんですか。それが一つと、編成の中に例えば小中学校の統合再編の中に、選定の理由、9年間を見据えた教育カリキュラムを組むことができるこれが理解できないんです。この辺がありきたりに理由を述べて書いているだけな気がするんです。実際の

生々しい教育の現場ではこのようなものではないと思うんです。いろいろな考えがあって賛成があって反対がある。どうもそれがアンケートでいろいろ書かれている、なんかそれが反映されていないような形で、市の再編成のところが進んでしまっているのではないかという考えがある。ですから単なる説明会で終わってしまって、しゃんしゃんで終わってしまうような考えがあって、質問させていただきました。

(事務局)

ありがとうございます。学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方につきましては、この計画を作る前に統合計画審議会というものがありませんでした。その中で石岡市としての基本的な考え方をどのように定めるかというものの一つとして、この指針があるわけなんですけれども、大本には、文部科学省の指針であったりとか、それを受けて県の方針であったりとか、そういったものが示されている部分もあります。その中で望ましい学級数はどのくらいかというのが一つ目安としてあります。そこから先は市町村でまちまちなんですけれども、石岡市としては、少なくとも複式学級は解消を図ることと、クラス替えがある程度できる2学級以上となるような規模が望ましいとしておりまして、この考え方というのは、今回の答申だけではなくて、その前の平成20年の時の統合計画審議会の中でも、こういった考え方がありました。そうすると平成20年頃から続くものかなと思います。クラス替えが可能だというのは、単学級で6年間ないし9年間過ごすという事は、人間関係の固定化やそういったところのメリットもありますけれどもデメリットの部分もあって、それらを踏まえまして、ある程度の規模、しかしながら大規模で過密状況ではないようなものとして考えているところでございます。

それから小中一貫教育制度なんですけれども、茨城県でも人口急増地区ですとか、つくば市とか県南地域にみられるような大規模な千人規模の小中一貫校というのはイメージしておりませんで、どちらかという小規模な部分のデメリット部分を解消するというような形で、中学校で見ると単学級では3クラスしかないわけですね、クラス数によってその教職員の配置数って決まっております、やはり先ほど言ったような、5科目プラス専科の科目がありますので、クラス数が少ないと専科教育の方になかなか充足できないというところもありますので、その部分を小学校の6学年分と中学校の3学年分を合わせた学校として、小中一貫校を設置すれば、小学校の専科教育科、算数と数学や家庭科あるいは音楽といったところの部分が、小学校と中学校両方で対応できるようなものを考えていたところなんです。その他に石岡市での小中一貫の考え方は、ふるさと学習や英語教育ですね。現在、小学校の中学年から英語教育がスタートしておりますので、そういったところの系統的な繋がりを大切にするような考え方も含めて小中一貫校というふうにしております。二か所だけという事ではありますが、石岡市としては、将来的には小中一貫の学校を設置するにあたっては、石岡市としての小中一貫教育としての在り方や考え方をもう一度定めながら進めていきたいなと思っております。

(参加者)

地域の者でどうしても地区の事になってしまうんですけども、どうしても統廃合になった場合、負の遺産になるわけですよね、その際管理はどこがやるんですか。

(事務局)

現状ですと、城南中学校が閉校しまして、基本的には教育委員会で管理しているところです。新たな跡地の利活用が決まるまでは、暫定的な利用でありますけれども、体育館などは地域の方々含めて、バレーボールやバスケットボールといったのも含めまして利用をいただいております。武道館についても利用いただいております。基本的に教育委員会の方で管理しますけれども、全く違う学校施設ではなくなるような利活用がなされれば、それなりの関係部局で管理するようなことになると思います。ですから、基本的には草刈りですとかそういう防犯上の観点から考えれば、教育委員会の方でしばらくは管理するような形になると思います。

(参加者)

では、後は教育委員会の方ですべて管理するという事で、当然関川地区に関しては周りに土手が多いもので、かなりの草が生い茂ると思うんですけども、その辺も教育委員会の方で、市の方ですべて管理してくれるという事でいいんですね。いいんですか。

(事務局)

基本的にはおっしゃられたようなことでいいかと思います。改めて、閉校になったとしても、防災拠点として地域として活用していくような内容であったりとか、ご協力いただくようなことがあれば、また、改めてお願いすることはあるとしても、基本的には利活用が決まるまでは、市の方で管理していくようなことになろうかと思います。

(参加者)

市の方で、教育委員会の方ですべて管理をすると、当然関川って体育館が避難所になっているんですけども、草もかなり生い茂ると思うんですけども、その辺もすべて市の方で管理しますという事でいいですね。

(事務局)

想定としては、閉校されましても、地域の方々に開放するような形かなともいます。体育館もまだ使えますし、そういったところは使っていただくことで老朽化を防ぐと言いますか、荒れ放題になるところを防ぐような考え方もありますので、市の方で管理していきたいなと思います。

(参加者)

市の方ですべて管理していただけるかどうか。地元としては大変なんです。だからはっきり言ってください。市の方で管理するのか、それとも地元で管理するのか。当然そちらにいる方は代表で来てるわけですから、答えられるはずですよね。だからその辺をはっきり言ってください。

(事務局)

基本的には廃校後は教育委員会で管理していきます。

(参加者)

関川地区の者です。今までもこういう話し合いというのは何度もあったと思うんですね。それで、子どもの人口も減っている、それで統合するのは仕方ないと思うんです。ですけど、みんなが言っているのは跡地の問題なんですね、で、付属資料3の3-2から7に説明会の主な意見って書いてありますけれども、前回も出て来て跡地利用の事って書いてないですね、主な意見ということで、なんで書いていないんですか、意見ってあって意見に対する回答も書いてないですね、これには、かろうじて書いてあるのは3-8かな、政治家みたいに考えていきますとか図りますとか、目指していきますとか、検討させていただきますとか、具体性にみんな欠けるんですよ、ちゃんと検討しますとかじゃなく、やりますとか、そのようには書けないものなんですか。

(事務局)

審議会から諮問して答申を頂くまでの過程の中に、地域懇談会を開催しております。その後には計画を作る前の段階で、地域に説明会という事で昨年1月に開催させていただいたところです。計画策定するにあたり今後進めていく中では、説明会や協議が必要になってくる部分もありますので、そういったところは、跡地利用の問題でも、学校統合再編の協議をしていく中で、跡地利用を同時に進めていくというのはなかなか難しいところもあり、そういった点では、はっきりこうしますというのは書けないのが正直なところでございます。ですけども、皆様からどんどん利活用に関してはご意見いただければと思いますので、今後もこのような機会を作ってご意見をいただければと思います。回答やそういったところが不足していたことは大変申し訳なく思います。

(事務局・部長)

跡地利用については、本当に一番大きな問題なのかなと認識しております。石岡市でもご存知のように中学校を統合したのですが、跡地が決まったのが八郷南中ですね、県の特別支援学校になりました。その他の有明中学校、城南中学校については、跡地の利用が決まらずに、地元の方を中心に、校庭なり体育館というのを貸しているというような状況でございます。これからどんどん進めばもっと廃校になる部分が生じてきますので、教育委員会だけの問題としては捉えてございません。全庁的に組織を立ち上げて、検討会を立ち上げてくれという事で、教育委員会からは市長の方に要望してございます。ご存知のように、かすみがうら市さんの方では、全庁的に考えてですね、入札して、白紙になったところもあるんですが、跡地利用を全庁的に考えている市もございますので、そのように石岡市も進めたいと思いますし、地元の方の要望もあると思います。こういう施設がほしいとか、何かに使いたいとか、そういう意見を取り入れながら今後考えていきたいというように思っております。

(参加者)

関川地区の者です。前回の説明会から参加しているんですけども、前回の説明会から1年くらい経ったと思うんですけども、実際に今回の説明会、いろいろな意見も出ているんですけども、具体的にこの1年間の進捗がわからないんです。どういうところが具体的

に活動されて、どういうところがゴールに向かって行っているのかというのを、まず質問させていただきます。この1年間どのような内容で進めたのか。

(事務局)

前は計画書ができていない状況での地区の説明会という事で、全石岡市内で8地区回ってきたんですけども、それに対しまして、審議会から答申を得て地区説明会をやりまして、その後庁内で市の中で組織します、教育委員会に対して市長部局との調整という事で、計画をこのような内容で策定しますとうような事を確認し合って、この計画書を最終的に策定したところです。その後、各学校へ説明に参りまして、それからPTAの役員の皆さん保護者の代表の方々とヒアリングをして、少し遅れてはいますけれども、今回の説明会というような形でございます。ですから、この地区の説明会の他に、各学校の保護者向けに説明会というのを別で開催させていただくことになりましたので、それも併せまして別で各学校行ってやっているとところでございます。

(参加者)

説明会というところで開催されていると思うんですけども、具体的にいくつか優先度Aのところが挙がっていると思いますが、そちらは同時進行で進めていくのか、それともバラバラで進めていくのか。予算とかもあると思うんですけども、その辺はどうなっているのかというところと。それと実際に5年くらいかかるという事ですよ、この城南地区のところでは、その1年目はいつなのかという事を教えていただきたい。

(事務局)

一定の合意がなされれば、地区の代表者の方々や、保護者の代表と学校と教育委員会で組織します、先程も少し申しましたけれども、統合検討委員会というものを発足したい。というふうに考えております。それが早ければ、今年度ないし、来年度早々にでも新しいPTA役員さんの選出がなされればそういった方々にご理解いただいて委員になってもらいたい。その発足時期がいわゆる1年目というように考えております。ですから今はそれがスムーズに行けるように、疑問点とかそういったものを聞くにあたっては、こういった説明会を開催している状況です。

(参加者)

というと、来年度から5年ということですか。

(事務局)

それは、地域によって必ずしも5年という事ではありませんで、例えば3校プラス1校で4校の統合と、小規模な学校1校とそれから、1対1の2校の場合ですと年数も早くなったりする場合がありますので、そこは必ず5年という事ではない。地域によっては早まることもあるかと思えます。それぞれ、今年から計画ができましたので、他の地区でも同じような説明をして進めては行きますけれども、統合の最終年度が決まるというのは、統合検討委員会の中で確定していきますので、3年のところもあれば5年のところもあると想定しております。

(参加者)

子どもたちのためには、私は統合を早くしてもらいたいと思っている方なので、具体的に進めて行ってほしいと思っています。

それからですね、以前城南中学校の統合の時にもこのような説明会を開きながら何度か繰り返してきたんですけども、今、教育委員会の皆さん目の前にいらっしゃるんですけども、始まったときからメンバーがかなり変わってですね、申し送りがうまくいってなくて、検討委員会の時ですね、この時はどうだった、あの時はこうだったという事が、説明会の時に多々あったかと思うので、そういう事がないように、素早く無駄なく効率的にできるように組織を作ってい頂きたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(参加者)

今回は統合の跡地の事で質問した際には、パッと答えられるようにしていただきたいんですけど。

(参加者)

机に下がっている名前が見づらいです。

(事務局)

申し訳ございません。

(事務局)

今後、先程も申しました通り、地区の方々ご協力いただきながら、また一步進んでいきたいと思っています。保護者の中では、説明自体は前からやっておりますので、なかなか進んでいないようなご意見も多々いただくこともございます。子供たちの学習環境の改善のためにやっていきたいと思っていますのでよろしく願いたします。

(事務局・教育長)

本日は貴重なご意見等いただきましてありがとうございました。学校の地域における役割という事で今後の活用という事でお話ありました。小学校は地域のコミュニティセンター的な役割を十分に果たしてきて、今後地域の拠点としてどういった機能を残していけるのか、こういった事でお話があったかと思えます。先程もありましたけれども、学校は単なる教育施設だけではなくて、防災の拠点であったりとか地域における文化とかスポーツの拠点でもあるわけです。さらには地域コミュニティの精神的支柱でもあった、そういう役割を学校が十分に果たして来ている。この事も私どもは十分に承知しております。こういった事を踏まえつつ、子どもたちの学習の場としての機能を、統合再編については高めていくという事を、教育的な観点を第一としながらも、そのうえで、学校と地域との繋がり、先程行事等の話もありました。これも非常に重要な視点だと考えております。学校が持っていた多様な機能を、地域社会においてさらに維持発展させていくためにはどうしたらよいか、こういった事を我々も、先進校とかそういう地域もございますので、どういう事が一番ふさわ

しいのか、適切なのか、地域の実態に合っているのか、そういった事を含めてさらに研究を深めていきたいというように思っております。またさらに、このような話し合いは再度持つ機会もあるかと思えます。統合検討委員会のような場でも、こういった意見等を出していただきながらさらに一番いい跡地利用の仕方、統合再編の学校の在り方、そういった事についても深く研究を進めていきながら、話し合いを進めていって、子どもたちのより良い学習の活動の場となるような、そういう学校再編ができればと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。